

近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究 (①必修07-12-2/5)

目 的

近代の文化遺産は、従来の文化財とは、規模、材質など大きく違い、その保存方法や使用材料なども同様に違いがある。本研究では、その様な近代の文化遺産の保存修復を行う上で必要とされる材料と技術について調査研究を行う。また、保存修復だけでなく、活用方法についても、調査研究を行い、保存の方法や修復の進め方などにおいてよりよい状態で保存できるようにすることを目指している。

成 果

今年度は「動く美術工芸の粋」とも言われる御料車の保存と修復及び活用に関して、関係者を招き、研究会を開催し御料車の持つ歴史的及び技術的価値、鉄道史における位置づけや車内の美術工芸品に関する保存と修復手法及び台湾にも残る御料車の保存と修復について、発表、討論を行い、保存や修復に関する理解を深める事ができた。屋外展示されている大型構造物、鉄道車両や航空機などの文化財の防錆対策のため、試験片を使った屋外暴露試験を行い、塗装仕様と劣化速度の相関についても調査した。山口県萩市や静岡県伊豆の国市の反射炉など、史跡指定地に建つ建造物や構造物の保存や修復に関する研究を行った。新潟県佐渡市の佐渡金銀山遺跡、静岡県伊豆の国市の韮山反射炉、山口県萩市の萩反射炉など、史跡指定地内の建造物や構造物の保存と修復に関する研究会を実施するとともに現地調査も実施した。昨年度の研究会をまとめた報告書を刊行した。

- ・国内調査施設：大樹町多目的航空公園、海上自衛隊鹿屋航空基地、小樽市総合博物館、新潟県佐渡市の佐渡金銀山遺跡、静岡県伊豆の国市の韮山反射炉、山口県萩市の萩反射炉、博物館明治村、鉄道博物館、JR東日本東京総合車両基地等

論文

- ・ Shunsuke Nakayama "Conservation and Restoration of Audio-Visual Recording Media" 『Conservation and Restoration of Audio-Visual Recording Media』 pp.5-14 13.3・中山俊介「近代建築に使用されている油性塗料について」『近代建築に使用されている油性塗料』 pp.5-14 東京文化財研究所 13.3・中山俊介、大河原典子、安部倫子「フィルモン音帯の修復手法の一例」『保存科学』52 pp.243-247 13.3・中山俊介、小堀信幸「『タンク船』現況調査について」『保存科学』52 pp.275-287 13.3

発表

- ・中山俊介「近代建築に使用されている油性塗料に関して」第25回研究会「近代建築に使用されている油性塗料に関して」東京文化財研究所 12.2.10・中山俊介、森井順之「日本に於ける近代化遺産の保存・修復及び活用」東アジア文化遺産保存学会第2回学術研究会 内蒙古博物院、フフホト・中華人民共和国 11.8.16-18

研究会

- ・第26回近代の文化遺産の保存修復に関する研究会「御料車の保存と修復及び活用に関しての研究会」東京文化財研究所 12.11.30

刊行物：・『近代建築に使用されている油性塗料』東京文化財研究所 70p 13.3・『Conservation and Restoration of Audio-Visual Recording Media』東京文化財研究所 89p 13.3

研究組織

○中山俊介、池田芳妃（以上、保存修復科学センター）、横山晋太郎、長島宏行、小堀信幸（以上、客員研究員）

講演者：北野信彦（東京文化財研究所）「建築文化財における塗装彩色の材質劣化」
木川りか（東京文化財研究所）「建築文化財における塗装彩色を含む部材の生物劣化」
島田豊（京都府教育庁指導部文化財保護課）
「京都府下建造物における塗装彩色部材の劣化と修理（事例報告）」
原島誠（厳島神社工務所）「厳島神社社殿建造物における塗装部材の劣化と修理（事例報告）」
豊城浩行（文化庁文化財部参事官〔建造物担当〕）
「建築文化財における塗装彩色部材の修理の考え方」

近代の文化遺産の保存修復に関する研究会（①必修07-12-2/5の一部として実施）

平成24年度は、近代化遺産の中でも「動く美術工芸の粋」とも言われる御料車に関して開催した。皇族らの専用車両という特殊性故に、日々の掃除や修復等通常の列車や客車とは別の扱い方あるいは考え方が必要である。そのような御料車に関して、保存修復に携わっている方々や鉄道史、鉄道技術の専門家など5人と台湾の方1人を招き、保存や修復に関する事例紹介を通じてその考え方や難しさを知るとともに活用方法等を討論した研究会を実施した。

第26回「御料車の保存と修復及び活用に関する研究会」

日 時：2012（平成24）年11月30日（金）10：00～17：00

会 場：東京文化財研究所セミナー室

講演者：中山俊介（東京文化財研究所）「御料車の保存と修復及び活用」
堤一郎（東京文化財研究所）「日本における御料車と技術史面での意義」
嶋立良晴・田邊優子（鉄道博物館）「鉄道博物館の御料車」
中野裕子（博物館明治村）「御料車の保存と公開」
山下好彦（東京文化財研究所）「御料車における内外装の保存処置―解体部材の事例を中心に―」
石井美恵（東京文化財研究所）「御料車の内装染織品の保存処置」
黄俊銘（台湾・中原大学）「台湾の御料車について」

総合研究会（④企）

所内で開催する総合研究会は、企画情報部が担当する。各研究部・センターの研究員がテーマを設定してプロジェクトの成果を研究発表し、テーマに関して所内の研究者間で自由討論するシンポジウム形式をとっている。平成19年度より独立行政法人国立文化財機構に対し、総合研究会の案内を通知している。平成24年度は下記のスケジュールで実施した（会場：東京文化財研究所セミナー室）。

- ・第1回 2012（平成24）年9月4日（火）
二神葉子（企画情報部）「第36回世界遺産委員会」
- ・第2回 2012（平成24）年10月2日（火）
岡田健（東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会）
「文化財レスキュー事業の進行状況とこれからの課題」
- ・第3回 2012（平成24）年11月9日（金）
飯島満（無形文化遺産部）「音声資料のメディア変換をめぐって」
- ・第4回 2013（平成25）年1月15日（火）

『日韓共同研究報告書2012』（①保修04の一環として実施）

国際共同研究「文化財における環境汚染の影響と修復技術の開発研究」に関する日韓共同研究報告書である。

大韓民国文化財庁・国立文化財研究所と共同で刊行した。



『伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究報告書 2012年度』（①保修06の一環として実施）

本書は、中期計画プロジェクト「伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究」の本年度の活動内容のうち、代表的なものをまとめた報告書である。

本プロジェクトでは、これまで伝統的な文化財修復材料の適用や適正な文化財修復に対する使用方法の構築、さらには合成樹脂の適用や見直し調査などを目的としている。本年度の報告書では、①表装裂試料データのデジタル化、②文化財建造物における塗装修理材料の使用状況調査—丹塗・弁柄塗・朱塗—、③民家建造物における伝統的な塗装材料の調査と修理、④平等院鳳凰堂の塗装材料に関する調査報告、⑤瑞巖寺本堂内部の欄間木彫などの彩色材料に関する調査報告、⑥瑞巖寺本堂の塗装材料に関する調査報告、⑦厳島神社摂社荒蛭子神社本殿の塗装彩色材料に関する調査報告などの調査研究報告、さらには本年度開催した研究会の報告として各発表の要旨や総合討論、アンケート結果を掲載した。



『日本画・書跡の損傷—見方・調べ方』（保修13-12）

日本画や書跡といった伝統的な装飾文化財について、その作品の状態把握を適切に行うための手引書として編集された市販本である。作品を専門的に取り扱い得る修理技術者と当研究所の科学的知見をもとに、美術館博物館の学芸員、美術史研究者、学生などが作品の構造と損傷状態を写真や図を中心に網羅的に解説したものである。



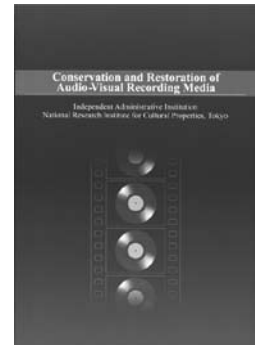
『近代建築に使用されている油性塗料』（①保修07の一環として実施）

本書は、2012（平成24）年2月に東京文化財研究所で開催した近代建築に使用されている油性塗料に関する研究会において、文化庁文化財部参事官室（建造物担当）調査官の小沼氏より、指定品となっている建築物に関する油性塗料の使用事例の紹介、及び、失われつつある材料の確保についての文化庁の取り組みが紹介され、続いて、博物館明治村の柳澤氏より博物館明治村における建築物の修復事例に関する詳細な報告がなされ、大澤塗装株式会社の大澤氏からは、油性塗料を含めた日本における塗装史に関する講演があり、最後に、ドイツのドイツ技術博物館のフォルカ・キースリング氏から、ヨーロッパにおける油性塗料の歴史、及び氏の専門である油性塗料に含まれる油に関する講演で締めくくった内容をまとめたものである。



Conservation and Restoration of Audio-Visual Recording Media (①必修07の一環として実施)

本書は、2011（平成23）年3月に発行した、「音声映像の記録メディアの保存と修復」の英訳版である。各種音声・映像記録メディアの紹介及び保存状況や修復事例の紹介から始まり、行政の立場から文化庁美術学芸課の岡部氏、保存する立場の現場から東京国立近代美術館フィルムセンターのとちぎ氏、セルロイドハウス横濱館の松尾氏のお二方、さらには、修復のワークショップを通じて皆さんに映画フィルムの楽しみ方を広めておられる大阪芸術大学の太田氏、レコード音源の修復作業に携わっておられるログオーディオの坂本氏、加えて、ベルリン技術経済大学で写真の修復を教えていらっしゃるカースティン・バーテルス氏に、それぞれの立場から講演頂いた。



『各国の文化財保護法令シリーズ [15] 韓国』(②セ01の一環として実施)

本シリーズは先行の「文化財保護関連法令集」を受ける形で、2008（平成20）年度より発行を続けているA5判冊子である。諸外国での文化財保護制度を法的な面からアプローチする目的で、まず原文を収集し、研究の第一歩としてその和訳を試みている。

本冊子は、韓国の文化財保護法を和訳したものである。巻末には韓国語の原文も併せて掲載している。(2013年3月刊行、158ページ)



『各国の文化財保護法令シリーズ [16] ミャンマー』(②セ01の一環として実施)

本冊子はミャンマーの考古遺産法とその改正法、及び文化遺産地区保護保存法とその改正法、施行規則を和訳したものである。巻末にはミャンマー語の原文も併せて掲載している。(2013年3月刊行、167ページ)



『各国の文化財保護法令シリーズ [17] フィリピン』(②セ01の一環として実施)

本冊子はフィリピンにおける文化遺産に関する最新の法令である2009年国家文化遺産法とその施行規則、及びフィリピン史を通じた国民のナショナリズムの向上に関する法律を、原文の英文から和訳したものである。巻末には英語の原文も併せて掲載している。(2013年3月刊行、179ページ)

